

## 開催記録

名 称	令和元年度第1回会津美里町地域創生・人口減少対策有識者会議
開催日時	令和元年6月26日（水） 午前10時から正午まで
開催場所	会津美里町役場 本庁舎 203 会議室
出席者	委員別紙名簿のとおり（欠席委員3名） 事務局 政策財政課鈴木國人課長、小川良典参事、政策企画係川田浩泰係長、大竹克昌主任主査、人口減少対策室渡部充室長、國分政和係長、秋山拓也主事
議 題	・平成30年度地方創生推進交付金事業の効果検証について ・令和元年度地方創生推進交付金事業の取組状況について
資料の名称	・令和元年度第1回会津美里町地域創生・人口減少対策有識者会議資料一式
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p><b>委嘱状交付（代表者交付）</b> 会津美里町商工会主幹経営指導員 渡部晋 氏 異動等により3名の委員の入れ替わり 会津美里町商工会主幹経営指導員 渡部晋氏 福島県立大沼高等学校 齋藤靖氏 会津信用金庫高田支店支店長 柏倉誠氏</p> <p><b>1 開 会（省略）</b></p> <p><b>2 あいさつ（省略）</b>（座長：会津大学短期大学部教授 石光 真 氏）</p> <p><b>3 会議の趣旨説明（座長：石光真氏）</b> 事務局より、会議資料に基づき説明。 （座長）事務局からの説明に対し、意見等はあるか。 （委員）（なし）</p> <p><b>4 協議事項（座長：石光真氏）</b> （1）平成30年度地方創生推進交付金事業の効果検証及び（2）令和元年度地方創生推進交付金の取り組み状況について（関連があるため一括して協議）</p> <p><b>ア 外国人観光客誘致のためのデジタルDMO推進事業</b> 【担当課説明者：産業振興課商工観光係高橋係長】 説明者より、（1）について会議資料に基づき説明。 （座長）説明者から、評価検証シートに基づき説明があったが、意見等はあるか。</p>	

(委員) 評価指標としては大きな成果がでていますが、広域連携による7市町村の数値である。本町単独での数値はどれくらいか。

(担当課) 評価指標①の57,946人という数字のなかでは、会津若松市が13,000人程度と最も多く、本町としては1,800人程度である。この数字は宿泊施設からの情報と、町内7ヶ所にあるWi-Fi環境の利用件数等から算出したものである。Wi-Fiの利用件数だけでいえば前年に比べて大きく伸びており、国籍でいうと、英語圏の方の利用が増えていることがデータから分かっている。評価指標②については35,499人中、会津若松市が18,000人程度、北塩原が15,000人程度を占め、本町としては69人程度である。本町は宿泊施設が少ないため、数字が伸びにくい状況である。

(委員) 1,800人程度の外国人観光客はどこを訪れているのか。

(担当課) 町内のWi-Fi環境は、高田インフォメーションセンター、本郷インフォメーションセンター、ふるさと観光物産館、法用寺、せと町駐車場、伊佐須美神社、中田観音の7箇所である。この中では伊佐須美神社に最も多く外国人観光客が訪れている。最近では、法用寺の観光客数が増えており、会津三十三観音が日本遺産として登録された影響とみている。

(委員) 外国人観光客の町内の交通手段は何が想定されるか。

(担当課) 外国人観光客の多くはツアーのバスを利用していると思われる。欧米系はJRを活用し本町を訪れ、徒歩やレンタサイクルを活用することもある。町内で公共交通機関を活用するケースは稀だと思われる。

(委員) KPIの指標①、②から外国人観光客が大幅に増えている事が分かる。結果として問題は無いが、指標③の実績は半分以下である。この点について説明して欲しい。

(担当課) 指摘のとおり、指標③のデジタルDMOサイトのページビュー数は指標値の半分以下となってしまった。原因は、ウェブサイトの広告費を下げたことによるものだと考えている。以前は、経費内訳にある「定常プロモーション費」のほか、「注力プロモーション費」を予算措置していた。「注力プロモーション」とは、時期や地域を絞ってfacebookやgoogle等への広告を行うもので、ページビュー数に大きく影響を及ぼす。実際、「注力プロモーション費」をとっていた前年度のページビュー数のほうが今年度より高くなっている。経費をかければ数値を上げることができたが、事業費をそこまでまわすことができなかった。

(委員) 外国人客数に季節的な変化はあるか。

(担当課) 冬場は減り、夏から秋にかけては利用が増える傾向にある。

(委員) 冬の客数の減は、本町の気候・風土による影響ではないか。客数の減少する期間については、それに対応した企画を行った方がよいと思う。

(担当課) 今後は、冬ならではの景色や食などをピックアップして、紹介できたらと思っている。しかし、本町単独で紹介し、集客することは難しいため、広域連携のなかでそういったものを紹介していけたらと思っている。

(委員) 本町を好む人種や国、地域にターゲットを絞って誘客を行うことは考えていないか。

(担当課) 現在のところ考えていない。しかし、広域連携の市町村の中には海外との繋がり

をもつところもあるため、広域化のメリットとしてそういった繋がりを活用していきたい。

(座長) 協議の中でいくつか今後の課題も見つかったが、この事業の効果検証としては効果検証シートのおおりに地方創生に相当程度効果があったということでよいか。

(委員) (異議なし)

**【担当課説明者：産業振興課商工観光係高橋係長】**

説明者より、(2) について会議資料に基づき説明

(座長) 説明者から、資料に基づき説明があったが、意見等はあるか。

(委員) 今後の方針について、資料にフォローアップ体制を整えるとあるが、具体的にどのような事を実施していくのか。

(担当課) 具体的な取り組みについてはまだ決まってはいるが、資料にあるとおりに引き続きデジタルDMO事業（ホームページ VISIT AIZU）の運営を行うとともに、着地型観光商品の開発や、飲食店、宿泊業者などと連携し、OTA（Online Travel Agent）サイトの整備を進めていく。そのなかでフォローアップ等を考えている。また、町単独としては、インバウンド向けのセミナーを実施するなどして、地域の受け入れ体制を整備していきたい。

(委員) 本町は広域連携7町村の中でも、様々な農産物を生産しているという点で優位性がある。この点を活かして取り組んだらどうか。

(担当課) 外国の方の中にはベジタリアンなど、食にこだわる方もいるため、そういった方をターゲットにしていくという取り組みも良いと思う。提案を持ち帰り、本事業の会議の中で話し合いたいと思う。

(座長) 他に意見はあるか。

(委員) (なし)

(座長) 今後の方針については、委員から出た提案を踏まえ、効果検証シートの通り、「事業が効果的であったことから取り組みの追加等更に発展させる」ということでよいか。

(委員) (異議なし)

**イ 地域商社を中心とした会美ブランド活性化事業**

**【担当課説明者：産業振興課商工観光係高橋係長】**

説明者より、(1) について会議資料に基づき説明。

(座長) 説明者から、評価検証シートに基づき説明があったが、意見等はあるか。

(委員) 販売方法はどのようなものを考えているか。

(担当課) 今のところ商談会や物産展等での対面販売の売り上げが殆どだが、今後ECサイトでの販売を主軸にしていきたい。

(委員) 開発された商品は町内のどこで買えるのか。

(担当課) 販売は会津美里振興公社で行なっている。町内であれば、ほっとぴあ新鶴で販売している。「ぴんぴんころりカレー」については商品名の由来ともなっている中田観

音周辺の売店でも買うこともできる。町外では、会津若松駅内の土産店や、管内の道の駅等で販売を行なっている。

(委員) 売り上げを伸ばしていくには販路が必要であり、販路を広げるのは大変な事である。まずは町内の商店やスーパー等に商品を置いてもらい、地元で盛り上げ、地元で消費することで売り上げを確保していく事が必要ではないか。事業費に対しての売り上げをみると、民間では継続できない状況である。

(担当課) 地元での消費拡大は重要なことと考える。ただ、商品の価格が安くはないため、普段使いとしてではなく、贈答品等として商品が売れていけばと考えている。

(委員) 評価指標として新規就農者数や定住世帯数といった事業概要と一見関係ないようなものが設定されている。これは、事業での商品開発等を通して、本町の魅力アップにつなげ、新規就農者数や定住世帯数を増やしていくという理解で良いか。

(担当課) その通りである。売り上げが重要であることは当然だが、それ以前に地元の農産物を使った加工品を開発することで、町の農業を活性化させ、生産者や新規就農者が増えていけばと考えている。また、事業を通して本町の知名度を上げることで、移住者の増加につなげていきたい。

(委員) 経費内容について質問したい。商品のPRはこの事業にとって重要だと考えるが、それに対し、3の営業展開事業における(3)商談会出展費用が、他の費用に対して少なすぎるのではないか。

(担当課) 地域商社立ち上げ当初は自社の開発商品が少なく、商談会に出向いても売る商品自体が少なかったという事情がある。今は商品開発が進み、商品ラインナップが充実してきているため、今年度はそういった商談会にも力を入れていきたいと考えている。

(座長) 他に意見はあるか。

(委員) (なし)

(座長) この事業の効果検証として、効果検証シートのとおり地方創生に効果があったという事で良いか。

(委員) (異議なし)

**【担当課説明者：産業振興課商工観光係高橋係長】**

説明者より、(2)について会議資料に基づき説明

(座長) 説明者から、資料に基づき説明があったが、意見等はあるか。

(委員) (なし)

(座長) 先ほどの効果検証の中でも取り上げた消費の拡大や販路を拡大していくという方針を進めていくという事で良いか。

(委員) (異議なし)

**ウ まるごと支援プロジェクト (みさと・ばんげ型ネウボラ事業)**

**【担当課説明者：政策財政課人口減少対策室 国分政和係長】**

説明者より、(1) について会議資料に基づき説明。

(座長) 説明者から、評価検証シートに基づき説明があったが、意見等はあるか。

(委員) 評価指標③新規就農者数について質問したい。説明の中で趣旨は理解できたが、この事業で使用した指標の名称と同じで、紛らわしいように思う。指標の意味が異なるのであれば、名称を変えるべきではなかったか。

(担当課) この地域商社関連事業での新規就農者数は、雇用創出という観点での指標であり、1名の実績があったが、本事業については移住による新規就農という観点での指標であり、0名の実績となった。同じ指標名称で結果が分かれ、紛らわしくなってしまった。

(座長) 他に意見はあるか。

(委員) (なし)

(担当課) 昨年この会議で、移住者から本町への移住理由を聞いているかという質問があった。全ての方から聴取できている訳ではないが、Uターンが一定のトレンドとしてある。その他特徴的なのは、会津が好きで、まずは会津若松市で物件を探していたが希望にかなう物件がなく、美里町まで視野を広げてみたら、空き家バンクで良い物件と出会って移住につながったというケースもあった。

(座長) 町単独ではなく会津という広域的視点も併せ持つべきという一つの事例と言えるだろう。他に意見がなければ、この事業の効果検証としては効果検証シートのとおり本事業は地方創生に非常に効果があったということで良いか。

(委員) (異議なし)。

(座長) 今後の取り組みについてはどうしていくのか。

(担当課) 地方創生推進交付金事業としては今年度で終了となるが、結婚・子育てコンシェルジュの育成が図られ、出会いの場づくりや結婚希望者の相談・サポートが出来る体制が出来た。また、移住体験ツアーは直ちに移住につながるものではないが、ツアーを通じて本町のファンになり、関山地区で実施している田んぼオーナーに参加するケースなど、関係人口づくりにつながっている。そのため、町単独事業として結婚・子育てコンシェルジュ事業や移住体験ツアー等を継続していきたい。

#### (新規) 令和元年度地方創生推進交付金の取り組み状況について

##### ひとと地域が輝くまちづくりプロジェクト

【担当課説明者：政策財政課人口減少対策室 国分政和係長】

説明者より、会議資料に基づき説明。

(座長) 説明者から、資料に基づき説明があったが、意見等はあるか。

(委員) (なし)

(座長) 個人的な感想をいえば、民間を主体としてこういった事業を行うということは、本町も活気付いてきたということだと思う。15年くらい前、西会津町では町民が危機感を持って色々なことに取り組んでいた一方、本町ではそういった危機感が感じられなかった。本町もこのように動き出し、空き家の活動については一線を画してい

ると思う。ぜひ頑張って取り組んで欲しい。

(座長) 協議事項は以上となるがその他協議事項等はあるか。

(委員) (なし)

## 5 その他

次回の有識者会議は総合戦略の効果検証を行う。会議の開催は8月下旬を予定している。

## 6 閉会

以上、開催記録として報告します。